

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務マニュアルをすべての職員に配布。年1回、5つの花びらの研修を通じ、共有、実践を行っている。	法人の理念がホーム入口と事務所に掲げられている。ホーム長が中心になり月1回理念を基にした研修を開き、ホーム独自の理念も合わせ全員で振り返りをしている。基本方針でもある「自分らしく・結びつき・共にある・くつろぎ・たずさわりの5つのキーワード」を花びらに例え、実践に取り組んでい	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入。年間を通じた、保育園、小学校との交流を計画的にしている。散歩やスーパーへの買い物、図書館への外出等により、交流を図っている。	自治会にも加入しており、地元地区の回覧等により地域の情報を得ている。地区に協力費を納めているが地域の清掃活動は免除して頂いている。市社協から紹介を頂いた多くのボランティアの来訪が毎月あり利用者も楽しみにしている。保育園の運動会に招待されたり、小学生との手紙のやり取り、中学生の職場体験学習や専門学校の実習生の受け入れなども行き交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のケアマネージャーや市内で介護されているご家族の来訪や電話相談などは都度対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は、ご家族、安心相談員2名を加え毎回積極的意見交換を行い、指摘事項については、職員に周知し活かしている。	利用者、家族、区長、民生委員、市高齢福祉課担当者、介護相談員などにより、2ヶ月に1回、偶数月の第3木曜日に開いている。状況報告や事故報告を行い、意見や助言などを頂いている。会議のメンバーにも防災訓練への参加を依頼し、一緒に訓練を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場を通じ取り組んでいる。また、事故発生時の報告を速やかに行かない、情報の共有や再発防止に向けた協力関係を築いている。	介護相談員が月2回来訪している他、事故報告に市窓口へ出向いて相談している。介護認定更新時にはホームの職員も同席し、市の調査員に利用者の日頃の様子を説明するなど、情報提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会の設置や定期研修を通じ周知している。玄関は、自動開閉ができない構造であるため、職員が付き添い玄関の出入りを行っている。	法人内に身体拘束高齢者虐待防止委員会があり、年2回内部研修を行い周知している。利用者の生命や身体を保護するためやむを得ない場合は本人、家族に同意を得て経過を記録し、随時検討を行い早期解除に向け取り組んでいる。	

八幡グループホームのみり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	年2回の委員会と年1回の研修を実施している。入居前の自宅調査、事故報告書の早期提出により、早期対応、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時支援している。また、管理者は研修参加を通じ成年後見制度の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入居前面談により、十分な説明を行い、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設けている。また、研修や日頃の面会時にあった希望や要望を日々のミーティング等で確認し、反映している。	家族会が年1回、9月の収穫祭に合わせて開催されている。毎月お便りを発行し、家族に行事などをお知らせ参加していただいている。家族の面会は月合計で60~80件と頻回で、その都度意見や要望をお聞きし、職員間で情報を共有し希望に沿えるよう支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	棟会議、リーダー会議、拠点長会議、幹部参加によるライフサポート会議など提案を聞き業務に反映させている。	朝夕の申し送りを兼ねてミーティングを行い意見を交換し、運営の改善に繋げている。月1回、職員全員参加の各ユニットによる会議を開いている。また、管理者や棟リーダー、介護リーダーによる会議も開き、職員の意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	各スタッフは、自己評価後、1次評価者、2次評価者と面談を行う。また、キャリアパスにより各々がレベルに応じたスキルアップが出来るような環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に応じ、毎月社内研修を実施。日常の業務やケア会議を通じたOJTを実施。キャリアパス計画に沿ってレベル等に応じた社外研修も参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千曲市介護保険事業所連絡会 施設部会参加		

八幡グループホームのみり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を必ず行い、ニーズ把握 意向の確認を行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族面談を行い、認知症発症前からの情報を収集し、家族の意向や要望の確認を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前より、相談受付を行い、適切な施設紹介や在宅ケアマネージャーとの連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る能力を活かせるケアプランを立案し、家事活動の参加、献立作成などを通じ関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前面談、更新時面談等により、家族の役割を確認しながら、支援の方針を担当者会議や面会時に確認しながら関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や近所などの面会があり、積極的に受け入れている。外泊の積極的推進。	家族以外の知人や近所の方などの面会も頻繁にあり、ホーム内でも家族面会者が他の利用者に声掛けして下さるなど、新たな関係も構築出来つつあり、利用者からも喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、洗濯物たたみ、ボタン付けなど出来る人が出来ない人をサポートしたり、職員は関係を築きやすい座席に工夫するなど配慮している。		

八幡グループホームのみり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ関係機関と連携をとりながら、継続した支援が出来るよう、情報の提供をおこなっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式シートを活用し、本人本位の希望や意向の把握に努めている。	センター方式を取り入れており、利用者の生活歴などを把握し、本人と家族の要望を援助内容に反映している。理念にも掲げられている通り、利用者本人中心のその人らしさを尊重したケアに重きを置き、日々の支援で実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記同様		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	なじみの生活に近づけるような過ごし方をアセスメントしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを毎月行い、棟会議、ケア会議、担当者会議を通じ計画作成に反映させている。	毎月計画作成担当者がモニタリングを行い、介護リーダー、介護職員の順番で意見を書き込み、計画作成担当者に戻す仕組みになっている。変更については家族の意見も仰ぎ、会議の度に議題にあげ、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活支援シート 介護記録 モニタリングを個別に記録し、毎日の引継ぎや棟会議に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	検討を重ねながら、出来る体制の中で柔軟な支援を行っている。		

八幡グループホームみのり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は回覧板等により、把握し、参加できる活動は柔軟に参加できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、ご家族へ説明を行い、入所後のかかりつけ医、医療機関を選択していただけるよう配慮している。	利用契約時に家族からの希望を聞いて対応している。協力医による往診も月2回行われ、適切な医療が受けられるよう支援している。協力医以外の受診については家族に付き添いをお願いしている。インシュリン注射を行っている方もいるため法人内の看護師が毎日来訪しているが、その際に医療的な相談もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の常駐は現在はない。系列施設からの応援体制。介護記録の確認や、看護連絡ノートなどを活用。また、電話での調整を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院カンファレンスへの参加を行い、情報交換や関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	関連施設からの看護師の応援体制があるが、24時間対応はしていない。	現段階では看取りを行う環境が整えられておらず、今後、看取りの体制を整備して行こうと検討中である。利用契約時や担当者会議の際に、事前に家族の意向の確認をし万が一の支援についても綿密に話し合いをしている。それでも予測不可能な事態が起きた場合は担当医やケアマネージャー兼管理者、家族、病院のケースワーカーと合同カンファレンスを行ない検討をするようになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回応急処置や事故対応、感染症対策の研修を実施している。		

八幡グループホームのみり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を地域住民も含め行っている。防災協定について、検討中であり、見守りを含めた協力、施設を避難所として開放	年2回実施している。そのうち1回は夜間想定で行い、消防署の職員、区長、介護相談員、地域住民などの参加の下、隣接の特定施設入居者生活介護との合同訓練が行われている。地区との防災協定を結ぶことについても少しずつではあるが、実現出来るように努めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報等の覚書を交わしている。研修を年1回行っている。また、自尊心を傷つけないような言葉を選んだり、本人の受け入れがしやすいようなケアの方法を考え実践している。	プライバシー確保のため、個人情報保護マニュアルを作成し、研修も年1回実施している。利用者の呼びかけについては利用者が望む場合は馴染みのある呼び方など、本人の世界観を尊重し声掛けしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動の選択や出来る活動の参加など本人の意思を尊重した働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、就寝時間、入浴時間、など本人の意思を尊重している。衣類の選択やする活動、したい活動など本人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容ではパーマやカラーを楽しんだり、化粧やおしゃれを通じ自分を表現していただけるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食一緒に行っている。利用者の好みを献立に盛り込んでいる。行事食等も提供する中で食事準備や片付けを楽しみながら行なっている。	ホームでは口に入れる物全てに水素水を使用しており、利用者の方に配慮している。食物繊維入り雑穀米を使用し、排便コントロールがうまく出来ない方には水分の中にオリゴ糖を加えるなどして薬の負担の軽減に努めている。敷地内の畑では季節に応じた野菜を栽培し収穫を楽しんでいる。食後の片付けや洗い物をする利用者もおり、出来る範囲でお手伝いをしていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェックを行いながら、薬に依存しない対策を検討し、トータル水分量を把握し、盛り付け量なども個別に定めている。雑穀ご飯による便秘対策やカロリー、塩分に配慮した献立を作っている。		

八幡グループホームのみり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施。また、訪問歯科検診なども実施し、助言を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援シート、温度版を活用し、オムツの使用量、一人一人のパターンを把握。これまでの習慣も含め、排泄の自立や使用枚数削減に努めている。	一人ひとりの排泄パターンを時間毎に記録している。日常生活支援シートがあり、職員がすぐに状態を把握出来るようになっている。個々の排泄マニュアルを作成し、尿意・便意を伝えることが困難な利用者については時間に関係なく仕草や表情から察し、トイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ストレッチ体操、豆乳、オリゴ糖など、自然の力を活かし、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆず湯など季節に合わせた湯を提供。曜日や時間帯はケアプランにより、位置付けているが、気分や体調を把握し、柔軟に対応している。	週2回の入浴が基本であるが、利用者のその日の気分や体調によって入浴時間を臨機応変にしている。入浴管理について、一人ひとりのマニュアルを作成しており、一緒に衣類を選んだり、その都度お湯を入れ替えているためご自身の好きな入浴剤もその日の気分に合わせてゆっくり楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	音楽をかけたり、なじみのぬいぐるみを置いたり、寄り添ったり、好みの室温に調整するなど支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容一覧を全職員が常時見れる場所に置き、変更時には情報を速やかに差し替える。また、服薬は2名セットでチェックを行い服薬ミスを防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式シートを活用し、把握して。また、なじみの道具の持参や趣味活動を行い支援している。		

八幡グループホームのみり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの外出レク、日々の散歩や買い物の外出、また、家族との夕食なども取り入れ支援を行っている。	年間行事計画を立てるイベント委員会が設けられており、お花見や紅葉狩り、近くの武水別神社での菊花展など、季節毎に行われている催しに出かけ楽しんでいる。買い物はなるべく同じ利用者にならないよう声掛けし、毎日近くのスーパーへ食材を買いに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状では金銭の預かりはしていないが、希望により、金銭預かりや買い物同行する仕組みがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、希望時支援し、支援している。暑中見舞いや年賀状作成も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の光や温かさ、風を感じて頂けるようにし、かつ、空調も調整を行っている。台所なども利用者さんを入れる十分なスペースを確保し、家具なども家庭的な雰囲気の物を用いている。	各棟ともほぼ同じ居室の造りで南向きの窓ガラスは大きな掃き出し窓で、リビングに陽が差し込み、とても明るく開放感がある。テレビは各棟に2台ずつあり、食堂の椅子に腰かけながら見たり、ソファでくつろぎながら見ることが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食堂の席を配慮したり、本人の意向を聞きながら希望を取り入れた支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や布団はなじみの物を持参していただいている。	使い慣れた馴染みの家具や調度品などが思い思いに持ち込まれている。ベッドについても希望があれば使い慣れた物やご自身で気に入っているマットレスを使用されたりと、利用者が過ごし易く居心地の良い生活が送れるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式を用い、出来る事、出来る可能性のある事を個別に把握し職員は出来る事までやりすぎないような環境を整えている。		